

・講義を受けて、他の講義では学ばない避難場所や不審者対応、実践したエビペンなど学ぶことが出来ました。いざとなった時この講義を思い出して子どもや地域の人を守ってあげたいなと考えました。

・学校安全の授業で、子どもの周りにはたくさんの危険があることを知り、危険予測能力を高めることは大切だと思いました。保育中だけでなく子どもの登園降園時にも危険が潜んでいることを知っておかなければならないと思いました。子どもには気づくことができないような事故や避難方法などを、家族や保育者、近くの住民の人などと共有して、万が一に備えておくことが大切だと学びました。自分が保育者になったときに、誰よりも早く危険を察知したり、事故を防ぐために周りのことをみる力を身につけていきたいと思いました。

・私は、学校安全の講義において子どもの命を守るために必要なことを学んだ。

これまで受講してきた他の講義でも、子どもの命を守るための知識を身に付けてきたがこの学校安全では、子どもの応急処置のことだけでなく、園生活の中で災害が起こった際にどうするべきなのか、お散歩中の事故防止、アレルギーに関して等多くの学びを得ることが出来た。

・この授業で得た知識を今後も忘れず、子どもの命を絶対を守る事が出来る保育者になりたいと思う。

・学校安全の授業を通して学んでよかったのは、災害時での対応です。地震や土砂災害など様々な自然災害が多く見られ、保育者になった際素早く対応できるのか不安しかありませんでした。保育者は子どもの命を守らなければいけません。また、子どもたちの名札や服などに、名前・住所・電話番号など書いていると良いと習い、自分が働く園でもできたらいいなと思いました。学校安全で災害時の時の対応を詳しく知ることができ、改めて良かったと思いました。

・学校安全の授業を通して、災害時の適切な対応や、子どものアレルギー対応について、交通ルールや、不審者対応など、基礎的な部分を学ぶことができたと感じています。いずれも、日頃から常に意識していることが大切で、特に災害時や不審者対応については、シュミレーションを行い、その場で適切な行動を取れるようにしておくことが重要であるとわかりました。冷静に行動できるよう、これからも心がけておきたいです。

・街中や子どもたちの通学路には危険が様々な所に潜んでおり、それらの危険をあらかじめ学び万が一の事態に備えておくことで身の危険を防ぐことができるのだということをこの授業で学ぶことができました。また、どのような場所や時にどういった事故が起きやすいかなどのパターンも学んだことにより、未然に事故を防ぐために子どもたちにできることがたくさんあるのではないかとということも学びました。子どもたちの命を、責任を持って守ることは保育者にとってとても重要なことであると学ぶ事ができました。

・普段はじっくり考えることができない日常生活での身近な危険なことを学ぶことができました。保育者は子どもの命を預かるとても重要な仕事です。一度の判断が今後の子どもに大きく影響を及ぼすこともあるということを、授業を受けていくたびに感じました。災害の授業ではこら辺の地域は津波の被害は少ないですが、どんな状況でも保育者が冷静にどのように対応するべきかを考えていきたいと思います。

・保育の現場で、子どもの安全を守ることができるのは保育者だけだと思うので、園の近くに不審な人物がいるときや保育中に災害が起きたときなどに、子どもの安全を第一に考え、他の職員との連携をとることの大切さを学びました。また、不審な人物へ対応したり、声をかけたりするときには、少し離れたところから声をかけたり、危害を加えないかななどを把握するということが大切だということなどを学びました。

・学校安全の授業では、災害時や不審者が来た時の対応について学んだことが最も印象的です。子どもたちが安全に、安心して学びに向かうことができるように、周囲の環境を整えたり、非常事態時の対応についてしっかりと事前に学んでおくことが大切だと思いました。何か起こってしまった際には焦らずに、冷静に対応できるようにしたいです。

・「学校安全」の授業を通して、保育や日々の生活の中でさまざまな危険が潜んでいることを知ることができました。また、アレルギーについての知識を得て実際にエピペンを使用しました。他にも、災害や事故など様々な分野を学ぶことができました。

・私は、子どもたちが保育の中で安全に過ごすことができるためには、子どもたちの日々の姿を把握し、保育士同士の連携を図ることが求められると思います。これから保育現場で働く際に、学校安全で学んだことを活かしていきたいです。”

・学校安全の授業ではオンラインも使いながら様々なことを学ぶことができました。オンラインでは動画を使いながらテスト形式でひとつずつ学びを深めることができました。ほかの授業では学ぶことができない、不審者が来たときの対応や映像の中でどのような事故が起きる可能性があるのかを考えることができました。不審者が来たときはすぐに大きな声を出して部屋に入るのではなく、職員がわかる合言葉を作っておくことがとても印象に残っています。学校安全の授業で学んだことを今後活かしていきたいです。学校安全の授業を通して、今までは雨などが降って幸い大きな災害にあうことはなく過ごしてきましたが、授業で動画を見たりして、大丈夫だと思っけていても気づいた時にはもう危険な状態になってしまっていたり、自然のことはいつ起きるか分からないので、事前に避難場所を家族で決めておいたり、避難グッズを用意しておくことの大切さを改めて学びました。

・子どもが安全に園生活を送るためには、保育者が安心・安全な環境を作り、些細なことでも子どもへの注意を欠かさないことが大切であるということを知りました。印象に残っている授業はエピペンのお話です。少し確認を逃すだけで子どもの命の危険に大きく関わるということが怖く感じました。アレルギーを持っている、持っていないに関わらず、食事に関しては確認を怠ると危険なことになってしまうので気をつけたいです。学校安全で学んだことを自分の保育に活かしていきたいです。

・私は、学校安全の授業を通し、保育者として子どもたちや保護者に適切な援助や支援を提供するためには、基本的な知識・技術を身に付けているだけでなく、自身の勤める園の周りの環境や地域特性、保育に関する制度などについて理解していることがとても重要だと感じた。また、日頃から園を利用している人だけでなく地域の全ての人々に目を向けてコミュニケーションをとっておくことも、例えば災害が起きた際などにはとても役に立つことだと感じた。活用できるものを存分に活用し、近くに見えるものだけではなくその外側にも目を向けられる広い視野をもった保育者でありたいと思う。

・学校安全の授業を受けて、災害時に子どもの生命を守るためになにをしないといけないのかが、具体的に学ぶことができました。また災害対策のために、情報を知る手段をもっていること、特別警報や注意報などの情報をしっかり理解することが大切だとわかりました。

・学校の校舎に不審者が入ってきた時に大人は冷静に判断し、子どもに被害が発生したり、被害が拡大しないように、子どもたちの安全を守ることが大切だとわかりました。

・学校安全の授業を通して、子どもの命を守るため、また自分自身の命を守るために大切なことを学ぶこ

とができました。

・授業内で視聴した、住宅街を自転車に乗った子どもの動画では、そのときに起こりうる危険や事故を考え、危険を察知する能力、予測する能力を身に付けることができたような気がします。この授業で見たような動画の光景は日常で目にすることが多いため、そういった時には授業で学んだことを活かして、安全を確保できたと思います。また、自分自身が安全を守る知識を身につけることも大切ではあるが、保育者になる私たちはこういった知識を子どもたちにわかりやすく伝える必要があるのではと思います。もちろん保育者が子どもの命を、責任を持って守るということを大前提とした上で、子どもたち自身が自分で自分の命を守ることができるようになる援助をしたいです。

・幼児教育を行う施設での安全教育の目的や事故防止、事故発生時の対応などについて、深く学ぶことができて、自分がどのような判断、行動をしなければいけないのかが分かりました。子どもの安全をしっかり守るためには、自分の判断や行動が大切になると学びました。不審者からの被害防止のための対策などについても、どのように行動するべきなのかが分かり、忘れずにしたいです。災害について、地震、津波、洪水、暴風などの対策についても学び、理解することができました。

・子どもたちを預かる保育の現場において子どもを安全を守るために必要な不審者への対応について学ぶことが出来た。危険な事件がたくさん起きている現代だからこそ、改めて防犯の意識を一人ひとり持つことが大切だと思った。そして、様々なことに気づき対策を考えていくためにも日頃から広い視野で見ることが大切だと学んだ。また、さまざまな園での取り組みや市町村の取り組みについて知る機会になったためにその取り組みを共有していきたいと感じた。

・学校安全の授業を通して、子どもの命を守るだけでなく、自分の身は自分で守るということ子どもたちに伝えていくことも大切だと学びました。交通ルールや、災害時の避難の仕方、不審者への対応など、それぞれの対応の仕方を学んできて、保育者が危険を察知することが大切だと思いました。また、普段から行う避難訓練がどれだけ大切なことなのかも理解しました。子どもたちの安全を守ることは当たり前なことだが、その当たり前のことを大切にできる人になりたいと思いました。

・学校安全の授業を通して一番印象に残っていることは、事故防止か何かの動画についてで、道路上にいる子どもの姿を見て、次の行動を予測するようなものでした。私が考えた行動は、子どもが手を振っているように見えたので、車道の車を確認せずに手を振った相手のところに走っていくのではないかと考えました。しかし、答えは違って、手を振った相手が玄関から飛び出してきてしまうものでした。この動画を見て、子どもの行動は完全に読み取り予測することは不可能に近いと感じてしまいました。私は卒業後、保育園で保育教諭として勤めます。子どもの行動は予測することが難しく、怪我や事故が起こることも多いと思います。そのため、保育者自身が環境づくりを怠ることがないようにしたいと強く思うようになりました。

・学校安全の授業を通して学んだことは、いつ起こるか分からない災害などに、すぐ対応できるよう日頃から気をつけることが大切だと学びました。様々な災害による避難訓練にどれだけ力をいれるかが鍵になると感じました。また、日頃から、園全体で対応の仕方や物の位置などの共通理解を深めることが大切だと感じました。そして、子どもたちを守ることは最優先ですが、保育者自身の身を守るためにも、災害への理解が必要だと学びました。

・学校安全の授業の中で特に印象深く残っているのは、散歩時の安全管理における取り組みについての内容のものであります。来春から保育園等で働く身である私たちにとって、すぐにでも必要となってくるような事項であり、また、保育者同士の連携や地域の情報共有の重要性について学ぶことができました。散歩という活動は、園外に子どもたちを連れていくため園内での保育よりもさらに保育者としての自覚を持ち、子どもたちの命を危険にさらすことの無いように注意していかなければならないと感じました。

・私が学校安全の授業で学んだことは、命を守ることの大切さです。保育士として、子どもの命を守ることはとても大切なことです。保育者として働く際に、災害が起きた時の対処法や、散歩の際に事故を防ぐための知識など、学校安全の授業を通じて学ぶことができました。保育者として、多くの子どもたちの命を守ることを考えると非常に責任を感じてしまいますが、子どもの安全を第一に保育を行っていきたいと思います。

・私が学校安全の授業を通して学んだことは、安全に関する知識や認識の低さだ。不審者に気が付かれずに避難するため、園内で合言葉を決めておくこと。災害時に、大人と子どもと一緒に避難できないことを想定して、個人情報カードを作っておくことは、どこの園でも取り入れる必要があると感じた。

・子ども達の安全を守ることは保育者として最も求められることだと思う。だから、授業で学んだことを振り返り、自分のものにしたい。

・災害が起きた時に注意すること、警報の種類の違い、事故を防ぐために気をつけることなどを学び危機管理能力が身についたように思います。普段の生活の中に危険はたくさん潜んでいて、いつどこで危険な目に遭うのか分からないため、危険かもしれないと予測しながら生活する意識を持って周りをよく見て自分で適切な判断をして自分自身は自分で守っていこうと思うことができました。これから保育現場に出た時は自分だけではなく子どもたちに命も守らなければならないので危険がよく潜んでいる場面を理解しておく必要があると思いました。

・学校安全を受講して学んだことは、子どもを守るためにいかに下準備が大切なのかをということ学びました。例えば、遠足の前などに必要にものを準備したり、道が危ないか事前にチェックしておくこと、更には、アレルギーの子どもへの対応が遅れないように、エピペンの打ち方を習得し、冷静に対処できるようにしておくことなど子どもを守る為に必要にことを忘れずに働いていこうと思います。

学校安全の授業では、学校で災害が起こったり不審者が出たりした時の避難方法などを学んだ。幼稚園や学校では担任が1人で子どもたちを見ていることも多いので、もしこのようなことが起こったときに速やかに落ち着いて行動できるようにする必要がある。子どもたちの安全を守れるよう、避難経路は必ず確認しておこうと思う。また、授業の中で印象に残っていることは、アレルギーについての話だ。アレルギーのものを食べたり触ったりするだけで命の危険にも繋がるので、慎重に扱うべきことだと改めて学んだ。エピペンの使い方も、忘れないように定期的に確認しようと思う。

・災害や、不審者、食物アレルギーなど、直接的に子どもの命を守ることにつながることに加えて、万が一のこともしっかりと考えて対応していけるようにしておくこと、念入りの確認がとても大切であることを学びました。災害や不審者など、避難の仕方が大きく異なることも把握し、地震や津波など、その時々に合わせて冷静にしっかりと行動ができるように、また確実に子どもたちの命を守れることができるように考えながら、訓練をしていきたいと思います。

・保育を行う施設やその周りの地域の環境において発生がおりえる事件や、事故、災害について事例から学び、次はどのようなことが起こると考えられるかを自分で考え、未然に塞げることの大切さを改めて学びました。子どもの生命・身体を守るための危機管理や事故対応など、学校安全の必要性を理解し、具体的な取り組みについて学びました。また、子どもへの安全教育は将来につながる安全意識・能力の基盤を培い、子どもに安全な生活習慣や態度が身につけられるようにすることの必要性を学べた。

・「安全」と「安心」という言葉を私は普段何気なく使っていましたが、二つの言葉は意味が異なり、使い方を気を付けようと思いました。今まで、深く考えずに過ごしてきましたが、雨量や災害時のマップについて等もっと住んでいる地域や職場の周辺のことについて知ろうと思いました。今まで災害という災害に実際あってこなかったのも、もしもいざという時のための知識や準備を行ってなければいけないと感じました。

・授業を通して学んだことは、どれだけ素早く子どもの命を守るかということです。

・授業で見た動画の中には、全く知らない事もあり、避難する時間を考えるという大切な知識を学ぶことができたと思います。学んだ知識を今後、保育者としてどのように生かしていくか考える機会になりました。特に、大雨についてです。近年、大雨の被害が多くなってきていることから、保育時間中、保護者と離れている子どもの不安な気持ちを考えつつ、安全に避難するという難しさや、あらかじめ危険な場所を確認しておく大切さを学ぶことができました。

・保育に起こる可能性のある事故や交通安全のことまで、保育者としてまた、地域の子どもを守る大人として、危険がどこに潜んでいるのか学ぶことができました。特に、アレルギーについての授業ではエピペンの正しい使い方や、どのような対応ができるのかなど実際に起きた例をもとに知り、改めてアレルギーに対して迅速な対応が求められることがわかりました。

・安全とは危害または損害を受けるおそれのないことで、保育者は子どもにとって安全で安心できる環境作りをしなければいけないと思った。

・散歩時は過去の事例でも事故が多発していたりして、園内にいる時よりも神経を働かせて子どもを守らなければいけない。保育者同士で色々な状況を想定して、道路の歩き方や保育者の立ち位置、持ち物など、事前に確認しておくことが多いことを知った。

・この授業では、保育者になったらいつかは使うであろうエピペンの使い方や不審者対応など、実際に保育者になった時に必要な知識を、身をもって体験し身に付けることができました。

・施設に勤める者として、災害時や緊急時に取るべき行動、日頃から気をつけるべきことなどを学ぶことができた。

・自然災害とその対策について深く学ぶことができました。近年では南海トラフ地震の発生が予想されているため、災害対策がいかに重要なものかを改めて感じる事が出来ました。自然災害はいつ起きるか分からないため、早め早めの行動をすることが大切であると学びました。また、ハザードマップを活用し、自分の地域にはどのような災害のリスクがあるのかをしっかりと把握し、事前に準備しておくことで、危険を回避できると感じました。

・学校安全の授業を通して、アナフィラキシーショックが子どもに起きた場合の対応の仕方、エピペンの使用方法について学び、緊急時の対応がきちんととれるようにしておくことが大切であると学習しました。

また、幼稚園や保育所に不審者が現れた際の対応法では、1対1での対応ではなく、2人で不審者へ対応すること、部屋に入って話をする場合には、玄関に近く、子どもたちから離れている部屋、部屋の入り口側に待機する等の対応の仕方や避難訓練の際には、避難ルートを複数確保できるように、避難ルートを通り、実際に避難すること、実際に災害が起こった際の判断が大切となることを学びました。

・学校安全の授業を通して、私は春から保育者として子どもの命を預かる立場であり、災害や緊急事態に子どもたちの命を守ることができるようにしなければいけないと学びました。そのためには、園の周囲の状況を把握しておいたり、園でのマニュアルや市町村の方針についてもよく理解したりして、保育者同士連携し、いつでも冷静に臨機応変な対応をすることが大切だと学びました。そして、保育をするだけでなく、子どもの命も預かっている責任感も持ちながら日々の保育に取り組んでいきたいと感じました。

・防犯、災害など様々なことを学びましたが、どれも知識が必要だと思いました。知識がなければ行動ができません。子どもたちの命を守る役割がある保育者は、知識豊富で冷静に判断することが大切です。日々の点検や定期的な練習などで行動をイメージすることでいざと言う時に動けると思いました。また、保育園などの施設だけでなく地域全体の理解が必要だと感じました。地域との関わりを大切に、多様な機関と連携し、それぞれ専門性を発揮できるようにすることが重要と思います。

・春から命を預かる立場に立つ上で、働く地域、場所の環境や起こりうる可能性の問題などをしっかりと向き合い理解することが大切だと学びました。また、それらの問題が起きた時にすぐに行動ができるように予行やシュミレーションをすること、落ち着いて行動ができるように保育者同士だけでなく、子どもたちともしっかりと共有しておく必要があると感じました。子どもたちと常に一緒に行動ができることも限らないことを考えた上で、離れてしまったことを予測し、子どもたち、また保護者を守るため保育者にできる最大限のことを考え対策することが保育者としてできることだと考えました。

・子どもに安心・安全を提供することも保育者の責務のひとつであると思いますが、平日頃から子どもたちの命を守るという意識をもっておくことが重要であると学びました。なかでも、実際に起こった事件や事故、災害に対する園の対応や被害などからは、準備やより実践的な訓練を重ねることの大切さを感じました。起こらないに越したことはないけれど、いざという時のために子どもたちの命を守れるよう、保育者が努めていかなければならないと思います。また、子どもたち自身が危機管理能力を身につけられるように働きかけていくことも大切だと学ぶことができました。

・自分の身は自分で守るということは幼い頃から教えられてきましたが、そのための正しい方法や周りの人のことを思って動くための知識はあまり知りませんでした。しかし、この授業を通してそのことが少しわかったと思うので、今度は自分が保育者という立場として子どもたちをきちんと守れるようによく考えて助けていきたいと思いました。

・ほかの授業は実際に実習や現場の経験をしていないと共感をすることが難しいものが多いですが、学校安全の授業は学生でも考えやすい授業内容や身近にいる子どもを想像して取り組める授業であるなど感じています。最近保育の散歩中に起こる子どもの交通事故をニュースで見ますが、何事においても「かもしれない」と思うことは、子どもの命をご家族からお預かりしている以上、常に先をみて考えることが大事であることを学びました。

・学校安全を通して、今までは守られる側でありましたが、自分が守る側となることを感じました。対策

などの知識を学ぶことも大切ですが、過去の出来事や経験を知り、そこから学ぶことも大切だと思いました。近年、災害のニュースをよく見るようになりました。この授業を受けて自分がどうするべきか考える時間を作ることができました。今後も日々災害や安全について考えようと思いました。

・授業を通して今自分のいる場所や、子どもと活動する園で災害があった時には安全なのかをよく考えるようになりました。自分の住んでいる場所の近所はよく知っていますが、園の周りにはどんなものがあるのか詳しくないので、本格的に働くようになるまでに調べておこうと思いました。またそれに限らず、避難場所や避難誘導など、子ども達が落ち着いて行動できるように、知識を身に付けて周りの保育者の方と連携できるようにしたいです。

・私は、学校安全の授業を通して、日頃から災害が起きた時の対策について考えることが大切だと学びました。地震などの災害が多い日本で、自分の身を守るためにも家族などと日頃から避難場所などについて話をしておくことも必要だと思いました。特に保育の現場に出ると、多くの子どもたちを守る役目もあるため、防災についてよく学び、頭に入れておかなければいけないなとも思いました。

・私の中で安全という言葉は、交通についてのイメージが大きかったのですが、不審な人物が現れた時の対処の仕方やアレルギーのことやアレルギーのある子供への対応など、幅広いことについて学ぶことが出来ました。特にアレルギーについての関心が深まりました。私はアレルギーを持っておらず周りにもなかなかいないので知識がありませんでした。しかしアレルギーのある子どもが体内に取り込んでしまうと発作を起こしたり最悪の場合は死に至るなど、とても危険なものだと改めて実感しました。

・私自身大きな災害に遭ったことがまだない為、災害の怖さが分かっていなかったり、避難時の準備を怠ったりしているので、考え直そうと思いました。

・保育者になったときに、たくさんの子どもの命を自分の命と同時に守らなければならないので、避難訓練の仕方や知識は頭に入れておこうと感じました。

・学校安全の授業では、さまざまな事故の対応の仕方や、それらを未然に防ぐための方法などを詳しく学ぶことが出来ました。保育者は、子どもたちを預かっているという責任を持って、常に子どもたちの安全を守っていかなければなりません。事故が起きてからでは遅いので、子どもたちが安全に過ごすことのできるように、事前の確認等を怠らないようにしていくことが大切だと学びました。

・学校安全の授業で1番印象に残っている授業は、アレルギーでのアナフィラキシーの事例を聞き、エピペンを実際に使った授業です。この授業で自分が実際にアナフィラキシーの子どもを目の前にした時の対応や、早さが肝心だということを学べたので、落ち着いて対応出来るような対策を取っておきたいです。幼児教育を行うにあたって起こる可能性のある事故について知ることができ、またその対応の仕方等について学ぶことが出来ました。保育者は子どもの安全に配慮するとともに、迅速な対応が必要だと考えました。具体的にどんな症状がでたら危険なのか、また、その時に保育者がどのように行動すべきなのか、私たちが人間なので怖いこともあると思いますが、子どもの命を預かる者として、判断し行動する能力を磨くことが大切だと思います。学校安全で身に付けた知識を、いざという時に実践できるようになりたいです。

・私が学校安全の授業で学んだことは、アナフィラキシーショックの対応やエピペンの取り扱い方を学ぶことができた。実際にエピペンを触って仕組みを理解することができてとてもいい機会だった。アナフィ

ラキシシーショックを防ぐためにも子どものアレルギーを把握しておきたいと思った。アナフィラキシシーショックで死にも至ることがあることを理解しておきたい。

・災害時では、「まだ大丈夫」「この辺りは被害は少ない」という少しの気の緩みが大きな被害に繋がるのだと分かった。また、道路での危険を考える動画では、よく見れば見るほど多くの機嫌が潜んでいることに気づくことが出来た。

・学校安全の授業を通して、保育者は子どもの健康や心身の発達を促すだけでなく、命を守る立場であることを改めて実感しました。確認テストは何回も落ちて再テストばかりだったのでこれから知識を身につけておき、自分が就職する園の地域のハザードマップや災害の特徴などを理解しておきたいです。

”学校安全のこの講義の中で日常の中でさまざまな標識やお知らせがあったりと、初めて知ることばかりでした。この知識は、保育者としてでは無く、人間として必要な知識であり、それらを学べたことは自分にとってとても大切なことであると感じました。いくら安全な保育室だとしてもいくつかの危険の可能性を常に意識しながら子どもたちと日常生活を過ごして行く必要があると感じた。

・子どもたちの命を守るには私たちがしっかりと知識をもっておかなくてはならないということがわかりました。1番印象に残っている授業はエビペンの練習をした授業です。実際にあれを刺すと考えたら、命を守るためだと言っても、怖いと思いました。しかし、知識を持っていれば保育者の私たちでも救える命があるのだと知り、しっかりと学習することができました。

・基本的な内容も、子どもの命を守る立場になる人間として、もう一度考え直さなければいけないと思った学びもありました。また、自分の安全を守るためにもとても良い学びになったと思いました。特に、災害については知らないことも多かったので、これからの保育に活かしていけるように頑張りたいというふうに感じました。

・生活の中でどのような危険が潜んでいるのか、また保育者にはどのような対応が求められているのかを学んだ。特に災害に関する標識と、学校における不審者への緊急対応の授業が印象に残っている。私が今まで住んできた地域では、豪雨や豪雪などが無い地域だったので、何数値以上だと危険という認識が薄い。同じ危険の標識でも、地域によって程度が違うことを学んだ。学校における不審者への緊急対応では、実際に事件などが起きている分、適切な対応をしなければならないという意識が強くある。子どもの命を守れなければ保育者がいる意味が無いと思うので、パニックにならずに冷静な対応ができるようにしたいと思った。

・普段学ぶことができないことを学ぶことができました。災害や事故はいつ起こるか分からないし起こってしまった時にはしっかりと対応できるよう知識を身につけることができました。これから保育者として子どもの命を守る立場となるのでしっかりと責任を持って学んだことを活かしていきたいです。

・学校安全を学んできて、保育者は自分の身を守るだけでなく多くの子どもの命を預かっており、重役な役割があるので、学校安全で学んだことをしっかり頭に入れて同胞保育者になりたいと思う。エビペンの使い方も学び、もしもの時にとても大切なので、あの時の授業の時だけでなく、日頃からいつでも使えるようにしておきたいと思う。また災害の際にも全員が無事であるように、避難場所や、土地の高さなど調べて対応できるようにしたいと思う。

・安心とは、心が安らかに落ち着いていることであり、不安や心配が無いことで個人の主観、心の状態の

ことをいう。安全とは、危害または損害を受けるおそれのないことをいう。園によって災害時のマニュアルが違うことを学んだ。避難時用名札を作っているのは、保育者がついていけない時に乳児など自分で言葉を発せない子どものための情報源になる。そこには、名前や生年月日、血液型、住所、保護者の連絡先、アレルギー、薬、エピペンの有無、本人の顔写真を付けているのはとてもいいと思った。

・学校安全の授業を通して、散歩の時の保育者の位置や不審者への対応など様々な保育場面での子どもたちの安全の守り方を学ぶことが出来た。そのため、学んだことを常に意識し、どのような場面でもすぐ行動をして子どもたちを守れるようになるろうと感じた。また、災害についても学ぶことが出来たため、これから働く地域の災害が起こった時の被害予想や避難場所などを確認しておこうと感じた。更に、エピペンを初めて使い、使用方法をより詳しく学ぶことが出来たため、この学びを忘れず正確に使えるようにしておこうと考える。

・「学校安全」の授業を通して、安全とは何かや交通安全の知識などの基礎的な学びから、子どもの命を預かる保育者としても災害が起きた時にはどのようなことに注意して行動しなければいけないかなどの専門的な知識まで様々なことを学ぶことが出来ました。地震や津波、火災などの災害はいつどこで起こるか予測がつかないため、事前に避難する場所を職員間で情報を共有し、練習しておくことなどの準備が大切だと学びました。

・学校安全で学んだことは、道路で交通事故に遭わないために、信号は必ず守る、右や左を見て、車やバイク、自転車等が来てないかどうかを確認してから横断することの大切さ、園での散歩時の横断歩道における保育者の立ち位置、子どもがアレルギーによるアナフィラキシーショック発症時の対応、津波、大雨における避難、等について学ぶことができた。園において、子どもが安全に登園したり、生活したりするために保育者が留意すべき事項について学ぶことができた。

・保育をする上で子どもの命や安全を守らなければならないのは、保育者なのだと自覚ができたと思います。私自身も、身を守るための方法を知ることが出来たのに重ね、子どもたちにも避難訓練や話し合いなどを通して、身を守る方法を定期的に伝えることがいかに重要か分かりました。災害や事故、そして不審者事件などは突然に起きるので、常に頭において危険へのアンテナを張っておくことは大切だと学びました。

・学校安全の授業では、災害時の避難方法や被害予想などを学ぶことが出来ました。南海トラフが30年以内に来る確率がものすごく高いと言われている中、私は避難のための食糧などを全く用意していませんでした。また、洪水などの映像も見ると、想像できないくらい怖かったです。いつやってくるか分からない自然災害だからこそ、いつきてもいいような備えが必要になるとあらためて実感することができました。

・この授業で、保育者は子どもたちの命を預かっているのだと改めて感じる事ができました。特に事例を使ったアレルギー対応についての授業が印象に残っています。子どものアレルギーを把握して管理することの大切さがよく分かりました。一歩間違えれば、子どもの大切な命を無くします。未然に防ぐことのできる事故は必ず防ぎたいです。もし、アレルギー反応が出てしまった時には、エピペンを上手に使用したいと思いました。

・今までの学生という立場は常に先生に守られ、災害が起きても自分の身は自分で守るけれど一番守ってくれていたのは先生でした。これからは立場が変わり自分が災害や不審者などの危険から子どもたちを守

らなければいけないことを痛感しました。

- ・他の授業で保育者個人が行う安全管理を学ぶことはあっても組織的な安全管理については学ぶ機会が少なかったため、学校安全の授業で学ぶことができ良かったと感じる。

- ・学校安全の授業を受けて、子どもに教えるべきことや交通安全のことについて改めて学ぶことが出来ました。また、地震や津波が来た際の注意事項などについて学んだので実際に保育者になっていく上で冷静に判断をして行動をしていきたいと考えることが出来ました。子どもが生活していく上で、園生活などを安心して生活していく上で保育者は保護者や地域の方と連携していく必要があると考えました。

- ・幼児教育を行う施設での事故や自然災害などについて学び、恐怖心が出てきたと同時に今後は様々な危険から子どもたちの身を守っていかなければならないと実感した。また、子ども自身が自分の身を守るようになるためにも安全指導などを行う必要があると分かった。事故や災害は人ごとではなく命に関わるため、日頃から危険に備えるために訓練をしたりハザードマップを確認したりし、もしもにすぐ対応できるようにしたいと思った。

- ・この授業を通して、子どもに関する安全について考えることができました。いつもの生活の中で、自分達の目線では気づけなかった危険が潜んでいることが分かり、普段から周りをよく見て気をつけることが大切だと思いました。また、災害について知り、保育の中できちんと対策を練ったり訓練を重ねたりして、いざとなった時に子どもたちを守るようにしたいと思いました。

- ・私は学校安全の授業で災害の避難について学び、保育園、幼稚園などの園での災害に対するマニュアルというものがとても大切であると感じました。また、災害時の保護者への子どもの受け渡しについてなど、命に係わることなのでしっかりと行うことが大切であると学びました。避難経路は災害によって違うことや、津波に関する標識、避難誘導標識が自治体によって違うことなどを知り、自分の地域のことや働く場所の地域のことを知り、安全対策をして行きたいと思います。

- ・学校安全の授業を通して、子どもたちを守るために大切なことを学ぶことができました。避難訓練については、保育所実習で経験しましたが、講義を受けてより子どもたちの安全を守るための大切なことだと認識することができました。保護者から子どもたちの大切な命を預かっているということを改めて感じることができ、しっかりと責任感を持った行動ができるようにならないといけないと思いました。

- ・この授業でさまざまな事故の事例を見て、身近なところに危険が潜んでいることを改めて学び、いつ自分がこのような場面に遭遇してもおかしくないなと感じました。色々な人の小さな確認不足の積み重ねが大きな事故に繋がってしまったり、逆に日々の避難訓練の取り組み、改善などによって大事に至らずにすんだりしていて、生活の中で常に最悪の事態を想定して行動したり、工夫したりすることが大切だと学びました。これから現場に出て、最良の選択をしていけるようにするためにもこのような事例を知り、それについて深く考えていきたいと思いました。

- ・災害についての授業が印象に残っています。実際に大災害に遭ったことがないのでいまいち実感はしていなかったけれど授業で実際に被害に遭った園の写真などを見て保育者になった時の対応など想定しておかなければ救える命も救えないということを実感しました。MAP を見てどの方向に逃げるべきなのかを確認することもできるということ学んだので、そのような便利なものを有効活用しつつしっかりと子どもの命、自分の命を守るように普段の訓練や想定を大切にしていきたいと思いました。

・地震などの災害の際、どのように行動して子どもを守れば良いのかということや、子どもの持つアレルギーについて正しく理解し他の保育者と共有することの大切さを学びました。何か起きてから考えるだけでは絶対に間に合いません。今のうちから様々な危険や子どもの姿を想像し、もしものことに備えて考え、準備しておく必要があると思いました。今後、南海トラフが起きると言われていると言われています。避難のために必要なものの準備や確認を進めて行けるようにしたいと思いました。

・学校安全の授業を通して、エピペンの使い方を知ることが出来たことが特に印象に残っている学びだ。私は、これまで周囲にエピペンを使っている人を見たことがなかったため、何も知らずにいた。しかし、アレルギー反応が出てきてしまった際に命を守るものとして、とても重要なものであるということを知り、実際に保育の現場で働こうとしている私にとってとても重要な学びであったと感じる。学校安全の授業を通して学んだことをこれから活かしていきたい。

・交通ルールや災害について知ることができた。身近なことだけれど、いつ起こるか分からないことが怖いと思った。子どもの命を守るために、交通ルールを伝えたり、避難訓練をしたりすることも大切だと思った。その中で、保育士同士の連携も必要だと学んだ。アレルギーは、とても危険だと知ることができた。エピペンをはじめて触ることができて、実際に使うことができたので、保育士になったときも焦らずに使用することができるようにしたい。

・学校安全の講義を通して子どもたちが安心して安全に生活することのできる環境を作り出すことの難しさを感じました。実際に起こってしまった小学校のアナフィラキシーショックの話ではアレルギー一つで子ども一人の命を奪ってしまうことの重大さを感じました。私たちは何気なく生活しているこの短期大学生活の中でも学生が新型コロナウイルスに感染しないよう取り組みをおこなってくださっていたことも学校安全につながるのだと考えました。津波や地震が起きた時、冷静な判断が出来ないかも知れませんが子どもの命を守る最善の選択ができるように保育者としてこれから努力していきたいと思いました。

・災害などが起こった時にどのような対応をするかなど実際に起きるまで学ばなかったら対応できるわけがないので学生のうちに学ぶことができてよかったです。災害に関する標識なども気にしたことがなかったので初めて認識しました。自分の住んでいる地域や就職園近くに標識があれば注意してみようと思います。天気予報でも雨の振り方によって言葉が違うことを学んだのでこれからは気にして聞いてみようと思います。

・特に印象に残ったのは、園児と交通量が多い所を散歩するときの解説の授業です。園児が横断歩道を渡る時に、保育者はどこに立つのが安全かなどを学んで、とても良い事が学べたと感じました。実際に散歩に行ってからどこに立つのかを考えるのは遅いので、事前に保育者同士で話をしたり、安全確認をしに行くことが大切だと学びました。

・私は学校安全の授業を受けて、子どもの命を守るためには、知識と自分で考えて動く力が必要だと考えました。知識があることで子どもの健康や安全を守ることは出来ます。しかし、予想もつかない出来事や日常の中に潜む危険に臨機応変に対応するには、知識を踏まえて考え行動することが何より必要だと思いました。様々な出来事に対応できるように実践できる技術を身につけていく必要があると思います。

・関西学院大学での学校安全の授業で、保育園や幼稚園の建物が崩れている写真、バスが土に埋まっている写真等を目にしました。現在、南海トラフという30年から40年後に起こる大地震が想定されています。

その際、保育者として子どもをどう守れるか、自分の命をどう守れるか、と考える機会となりました。

・ちょっとした思い込みや見えていない部分には、多くの危険が潜んでいるのだと理解することができました。だから様々な可能性を考えて、準備や行動をすることが大切であると学びました。またそれだけでなく、それぞれの特性などもきちんと踏まえて備えることが大切であると分かりました。少しの迷いが命を失うことに繋がることもあるため、状況に応じた適切な判断力が必要であると学びました。

・私は学校安全の授業を通して、子どもが安全で安心して過ごせるような環境を作り出すことが大切だと学んだ。安全で安心な環境を作り出すには保育者同士や他の専門機関との連携が求められると感じた。特にアナフィラキシーショックについての授業がとても印象に残った。実際に、アナフィラキシーショックを起こしてしまった子どもがいた時には焦ってしまうと思うが、まずは自分が落ち着いて行動できるようにすることが大切だと思った。

・学校安全の授業で、最も印象に残った内容は、エピペンを使ったアレルギーに関する授業です。アレルギーを持つ子どもに事故が起きないように、保育者はエピペンの使い方を把握し、適切な処置を行うことと万が一に備えて他の職員としっかりと対応を話し合っておくことが大切だと思いました。

・学校安全の授業では、命を守ることの大切さに改めて気付かされました。私は大きな自然災害や犯罪、事故に遭ったことがなかったので「そんなこと滅多に起こらないんじゃないか」と軽く捉えてしまっていたけれど、授業を通してこうした被害は何時起こるか分からないものだとを知ると同時に、今まで私たちの安全は周りの大人が守ってくれていたのだと感じました。これからは私たちが子どもの安全を守る立場になるので、災害や事故の備え、防犯の重要性を心にとめ、自分も周りの人の命も守れる大人になりたいです。

・散歩に行く際の基本的な注意すべきことや、不審者を発見した際のとるべき行動、また、それに備えておくべき事など、子どもの命を預かる者として心得ておくべき事をたくさん学べた。

・1番印象に残っている授業は、アレルギーについての回である。非常事態が起きた時についてもっと細かく、もっと効率的に決めていれば、救えるはずだった命が失われた事、この事例を忘れずに、保育に臨みたいと思った。また、薬についての授業の回でも、恐ろしく悲しい事例が取り上げられていたのは印象的である。授業で学んだ事を忘れずに、子どもの命を預かる者として最良の行動を心がけたいと思った。

・学校安全の授業を通して、保育において日々の生活の中で考えられる安全管理や、災害でどのようなことが予想されどのような対応が必要となるかなどこれから現場にでるまえに知っておくべきことをたくさん学びました。特に、どのような災害においてもマニュアル作成は重要であって、パニックに陥りやすい場面こそ子どもの命を守るために、様々な保育場面を想定し、子どもの言動も想定したうえで考えていくことが大切なのだ学びました。

・授業を通して子どもと関わる仕事をする上で、命を預かっているという責任感と専門的な知識を持つことの大切さを感じました。特に印象的だったのは食物アレルギーの事故についてです。この事故を通して毎回の詳細な確認や職員間の連携がとても重要だと感じました。エピペンを打つかどうか、救急車を要請するタイミングなどとっさの判断が必要だからこそ、冷静に慎重に行動することが大切で、かつ子どもたちを不安にさせないように配慮することも連携の下同時に行っていくことが重要なのだと学ぶことができました。

・学校安全の授業を通して学んだことは、自分の住んでいる地域やこれから働く地域について知ることが大切だと思いました。

・災害が起こった時に、今までは先生や家族がいましたが、これからは自分で判断して子どもたちを守っていく立場になるため、ハザードマップ等を日頃から確認しておくようにしたいと思います。

また、他の職員とも連携を取れるようにコミュニケーションを積極的に取っていくようにしたいと思います。

・学校安全では、実際にエピペンを使って試したことが印象に残っています。特に、現場でアレルギーの子どもがいれば、どのように対応し、どんな情報の共有が必要なのかを知ることができました。これから、どんな場面であっても、子どもを第一に考えた行動ができるように心がけていきたいです。

・学校安全の中で1番印象に残っているのが、アナフィラキシーについての授業です。本物の練習用のエピペンを実際に手に取って使ったり、小学校で実際にあった事故の話を読んだりして、たった一欠片でも、その子の命を左右するほど危険な食物アレルギーなのだと思いました。乳幼児はとくに自分で判断ができなかったり、誤って食べてしまったりする恐れがあるため、慎重に保育をしなければならないと感じました。

・私は学校安全という授業を通して、子どもたちを守るためのさまざまな知識や対応について学ぶことができました。それを学ぶと同時に、保育者はさまざまな要因から子どもたちの命を守らなければならないことを再確認しました。保育中にどんなことが起こるのか、子どもたちがいつどのような事故に会うのかは予測することができません。普段から子どもたちにわかりやすく安全教育を行い、実際にどのようなことが起こっても冷静な状態のまま、保育者としてすべきことをしたいと思います。

・学校安全を振り返って、これから子どもたちと過ごしていく人生の中で、必ず震災は起こると思います。私は、2018年に起きた大阪府北部地震の時、高校の修学旅行でニュージーランドに行っていたため、大きな地震をまだ体験したことがありません。そのため、地震がどのようなものなのか、見当がつかず不安です。ですが、子どもたちを守る側に立つ今、私は震災が起きた時不安になって焦る暇はないと思います。パニックになっても、子どもたちを正しい場所に導けるために、詳しい地震の情報を頭に置く必要があると知りました。私が行く保育園は、津波が来ると予想されている地域です。どのように、逃げるのかしっかり把握して、普段から避難訓練を子どもたちが集中して取り組めるよう、大切さを伝えていける保育士になります。

・食物アレルギーの子どもの死亡事例を見てどこが良くなかったのかまた悲劇を繰り返さないようにするためにどうすれば良いのかを考える機会がありとても勉強になりました。不審者対応について具体的にどのようにするのが分かりました。散歩に行く際にはどこに注意すべきか対応すべきかを学ぶことが出来ました。災害の際にとる対応をあまり知らなかったので知れて良かったです。e-ラーニングを初めて行い分かりやすく資料がまとめられていて確認テストもあったためとてもためになり良かったと思いました。

・学校安全の授業では、教育・保育施設で起こりやすい事故やその対応、日頃からの訓練や安全教育の必要性、災害時の職員の動き等、子どもの命を守るための方法を学ぶことができました。これまでの授業で特に印象に残っているのは、食物アレルギーの事例とエピペンを実際に触った授業です。話を聞いたり、動画を見たりしても、やっぱり実際に手に取ってみないと分からない事は沢山あります。みんなが触れる

為、感染対策や個数等、準備が大変だったと思いますが、エピペンに触れる機会を与えて下さりありがとうございました。また、私は学校安全の授業をきっかけに卒論の研究テーマを決めたので、授業で取り上げられた内容に対して「もっと深く掘り下げたい」と意欲をもって取り組むことができました。この授業での学びを踏まえて、安全な環境で、子ども達の命を守ることができるよう努めたいと思いました。

・私は学校安全の授業を受けて、1番印象に残ったことはアレルギーのある子どもに対する対応や支援です。アレルギーの食べ物などを誤って口にすると呼吸困難などの症状が出たり蕁麻疹酷いとアナフィラキシーショックになってしまうとても気をつけなければならないことだと感じました。エピペンも初めて触れることが出来て、打つ練習もできたので、保育士になってから使う場面が会った時に授業を思い出していち早く対応出来るようにしたいです。

・私が学校安全を通して学んだことは、災害が起こった際、保育者が子どもを第1に考えて行動しなければいけないことを学びました。保育者は保護者にすぐに返す必要があると考えていたけれど、返さず、様子を見て返すということも大切だということも学びました。とりあえず返すまでが守るのではなく、震災はいつどこで何が起こるか分からないため、今その時のいちばん安全な行動をすることが大切だと思いました。

・この学校安全の授業では保育者として園で子どもたちをどう守ればいいのかという大切さを学びました。とくにエピペンについては実際に練習用のものを打つことで、どのように打つべきか知ることが出来ました。子どもの命を守るためにアレルギー対応や保育者として子どもに災害が起きてもどのような対応が大切か自分が働く園ではどのような対応がされているか知ることの大切さを改めて知ることができました。保育の職業は、毎日が危険と隣り合わせで、子どもの命を預かることであることを改めて感じた。また、学校安全の授業で学んだ内容は普段の日常から保育に取り入れることで、子どもたちは自然と身につけていき、自然災害や交通ルールなどに意識が向くと感じる。保育者自身も専門職として、対応を熟知しておき、冷静に落ち着いて対応する能力が必要になるだろう。そのため、普段から情報を知っておくことが大切だとも思う。子どもたちの安全と安心を確保できるよう、視野を広くもって余裕のある保育を行いたいと感じた。

・学校安全では、色々な場面に潜んでいる危険を保育者として、どのように防ぐことが大切か、常に考えておくことが必要だと思いました。また、災害時の対応や、備えておくべきこと、避難する場所など、きちんと把握して、子どもの安全と自分の安全を守れるようにしたいと思いました。この授業を受けなければ、どういった危険が日常にあるのか、分からなかったし、災害時の対応についても、色々な具体例を見れて、具体的にどうしていけば良いのかが知れてよかったです。

・私が「学校安全」の授業を振り返って一番心に残っているのは、どのような時でも保育者は冷静になって、危機的状況にあっても子どもが少しでも安心感を得ることが出来るように、落ち着いて適切な対応をするということである。危機的な状況に置かれると焦って周りが見えなくなってしまうこともあるが、しっかりと子どもを守るものとして落ち着いた行動と冷静な判断をすることができるようになりたいと思う。

・学校安全の授業を通して、様々な安全対策について学ぶことができました。どの程度の気象で警報が出るかや、自分の住む地域のハザードマップを確認することなどの必要性を学びました。また、災害に限らず、不審者対応を含めた避難訓練の重要性を学びました。就職後この学びを必ず生かしていきたいと思

ます。その他にも、交通安全面についても学ぶことができたと思います。

- ・学校安全の授業を通して、大人として子どもたちの安全を守ることの重要性や責任感をあらためて感じました。特に授業で印象に残っていることは、災害の起こったときの保育園の悲惨な姿の画像を見たことです。災害はいつどこで起きるのか分からないし、起こった場合は子どもたちを保護者のもとへ返すべきかの判断も命に関わることを知りました。常に気を抜かず適切な判断を行えるよう意識したいと思いました。将来は責任感を持ってこの授業で学んだことを活かして保育者として働きたいです。

- ・保育中に災害が起こった時には、どこに避難するのか、どの経路で避難すれば良いのかを事前に確認しておくことが必要だということを学んだ。それだけではなく、保護者への連絡手段、引き渡しの仕方を含めて訓練をして災害に備えることが大切だと言うことも学ぶことが出来た。

- ・災害の種類によっても避難の仕方や避難経路が異なるため、どの災害の場合も考えて訓練をし、災害時にスムーズに行動できるようにすることが必要だということも学ぶことが出来た。

- ・学校安全の授業では、多くの分野について学びました。実際に現場にでたときにどのような対応をするかなどの実践的なことが多かったです。なにごとにおいても責任感をもって、物事を判断する、留意点をおさえて、丁寧に取り組めるようになりたいと思いました。プリントなども置いているので、いつでも見返せるようにして、これから頑張っていきたいと思います。

- ・学校安全の授業を通して、これから働く上で、自然災害や犯罪など様々な場合の対応の仕方を十分に理解しておくことが大切だと学びました。

- ・保育者は、自分の命だけでなく、子どもの命も守らなければならないので、職員全体で連携してスムーズに対応ができるよう、何度も会議や訓練をする必要があると思いました。”

- ・災害のことについて深く学んだり、不審者が学校にきた時の対処の仕方を学んで、今までは先生たちに守られて学校生活を送っていたのが、次は自分が子どもたちを守る立場になったことを自覚して、頑張っていこうと思いました。

- ・どのような場面においても、保育者が子どもの命を守ることに加えて、子どもが自らの命を守るためにできることを伝える大切さを学ぶことができた。特に、避難訓練については、避難のための動きを保育者同士で確認し合うだけではなく、子どもが危険から身を守るための行動を自分からしようとするために分かりやすく伝えることが大切だった。今後予測される災害等に備えて、就職先の園の安全確認や避難を促す力、気象庁による指示などを正確にかつ冷静に判断できる力を付けていくことがこれからの自分に必要なことだと考える。

- ・学校安全の授業を通して私が学んだことは、災害が起きた際の避難経路や避難場所を何個も確保しておくこと、不審者が園に現れた際は子どもたちがパニックにならないように合言葉を使用して逃げるなど、いつ何が起こっても臨機応変に対応できる力を備えることの大切さです。今までは自分の身を守ることを優先して考えていましたが、園に所属して働くとなると、子どもの身の安全を最優先することが大事になるので、子どもがパニックにならない言葉掛けや姿勢をとるよう意識したいと思いました。

- ・私は、エピペンの打ち方を実践した授業が一番記憶に残っています。私は、幼稚園に就職することが決まったので、一人で30人ほどの子どもたちを過ごします。子どもたちのアレルギーについてはしっかり注意・配慮したうえで、どのような事故が起こるかわかりません。その時にいかに迅速な対応をするかで

子どもの命を左右します。その自覚をもち、エピペンの打ち方を実践しておくことはとても大切な経験になったと思います。

・子どもがいつでも安全に過ごせるように、保育者は広い視野をもって、行動すべきことが大切だとわかりました。危ない状況になる前に、保育者が普段から環境を確認し、事故や怪我を防ぐことが大切であるとわかりました。また、職員などで、こういった場合は、またこのような場合はなど、いざとなったときにすぐ対応できるよう、確認しあうことで、子どもの安全を守れるのではないかと考えました。現場にでると、責任が私達保育者にあるので、ひとりひとりのことをよく理解し、大きな事にならないよう事前に防げるようにしていきたいとおもいました。

・様々な災害について学んだり、その対処法や対策について知ることができた。子どもの命を守るということの大切さを改めて感じた。事故や災害だけでなく、アレルギーや薬品に関する子どもの死亡例も多くあるため、保育の現場の安全確保が重要であると感じた。いつ起こるか分からないものに対して、正しい知識と判断力を身に付けておきたいと強く思った。

・事故や災害など様々な場面に危険がある。事故が起こる前に子どもにとって何が危険となるのか考え、防ぐことが大切であるが、それでも事故が起こってしまったときに、適切な判断・対応を保育者自身が落ち着いてできるようにしておく必要がある。そうするためにも、日々研修などで学び続ける必要がある。災害が起こったときにも適切な判断・対応をできるように、普段の保育で定期的に訓練を取り入れていくことが大切である。

・緊急事態時は日々の保育と違って初めて対応する場合も多く、自分も子どももパニック状態になってしまうかもしれないので、何度も予習し訓練し、回数を重ねてなるべく落ち着いて行動できるようにしなければならないということ、「緊急事態時」と一括りせずその場面ごとの正しい対応ができるよう状況の細かい設定をしてそれぞれに合った対応をできるようにしなければならないということ、その大切さを学んだ。学校安全の授業を通して、保育者として自分だけではなく子どもの命も守る責務があると強く感じた。災害や防犯。対策をしっかりとっておかないといざとなった時に動けなくなる。日々の訓練や情報収集の大切さを学んだ。だからこそ、自分が住んでいる地域だけでなく、園の地域の情報をよく知りどのような対策をとるべきなのかをしっかりと知っておく必要があると考える。今まで人任せにしてきた部分もあったが社会人として、保育者として、一つひとつのことに責任を持って行動していかななくてはならないと感じた。

・学校安全というものに対して最初は深く考えていませんでした。ですが子どもたちの命を守っていく、また自分自身の命を守っていく上で本当に大切な授業だということを改めて知ることができました。近年は災害や地震が増えていますが、その状況に自分が直面したときに、焦ってすぐに行動を起こせないのではなくて、冷静に判断して行動をするということが大切であることを学びました。まだ大きな災害などに私は直面したことがないですが、子どもたちの命をしっかりと守ることができるよう、頭の隅っこには必ず避難ルートなどを入れておきたいと思いました。

・今までは守られる側の存在でしたが、これからは子どもを守る側の大人として取らなければならない行動をし、知識を身に付けることができました。これから保育者として働く為に必要な対応や心構えが備わったと思います。1番印象に残っているのはエピペンの授業です。用途を知っていることで救える命があ

と思います。また使い方を身につけておくことで躊躇わずに実践することができるでしょう。学んだことをいかして救える命を助けてあげられる人になりたいです。

- ・学校安全では、不審者対応や災害時の対応などについて学んだことが印象に残っています。

私は阪神淡路大震災の時はまだ生まれておらず、東日本大震災の時は小学6年生でした。東日本大震災から10年以上が経ち、守られる年齢だった自分が、これからは子どもを守る立場になるということを強く意識した授業でした。普段からの徹底した訓練や情報の共有がいかに大切かを学び、震災によって家族を亡くされた方の思いにも触れました。最善を尽くしてもできなかったことは仕方ありませんが、普段からああしておけば良かった、こうしておけば助かったかもしれないという後悔が少しでも減るよう、日々の暮らしの中でできることに取り組んでいきたいです。

- ・私が学校安全の授業を通して学んだことは、子どもの命を守ることである。例えば、食物アレルギーによるアナフィラキシーショックに対してのエピペンの打ち方。不審者への緊急対応の方法。災害対策などについて学んだ。どれも幼稚園、保育所、認定こども園において起きうることであるため、授業で実際にエピペンを使ったり、災害時の知識を身に付けることができて良かった。授業で学んだことを活かし、現場で落ち着いて行動出来るようにしたいと考えた。

- ・学校安全の授業を通じて学んだことは、緊急時の適切な対応をすることの重要性です。子どもの怪我や病気、アレルギー反応などの命に関わる事態になった時、保育者の動きによって大きく状況が変わります。パニックになる状態の中で冷静な判断と正しい対応が求められるので、判断が出来るほどの知識が必要になると思いました。さらに、災害時などで大勢の命を災害から守らなければいけない時に、どのように避難するかをあらかじめ決めておくことの重要性も感じました。

- ・学校での感染症や子どものアレルギーについてなど、園内や子どもの安全や命を守るということについて学んだ。エピペンは聞いたことはあったが、実際どのような物かどう使用するのか知らなかったし、アレルギーショックが起こってから職員の団結や流れなども知らなかったため、万が一のときに備えて知っておくべきことだと感じた。授業を通して、子どもの命を守るために必要な知識を得ることができた。子どもたちを守っていく立場として、子どもの発達に関する知識はもちろん、災害などに対する知識も身につけることが大切だと、この授業を通して学びました。園外に出る時には、子どもを危険にさらさない為にも、一人一人の保育者がきちんと責任を持ち、気を引き締めて行動しなければいけないと思いました。

- ・学校安全の授業では交通安全や災害の時の対策など日頃から身の回りに潜む危険に対する策を知った。これを学んだのは自分のためだけではなく、この先保育者として子どもを守る身になるから学んだ。保護者から責任を持って預かる大切な命たちを誰一人傷つけることがないよう、細心の注意を払って守りたいと思う。自然災害においては、人間ではどうしようもないことである。そのような場合でもできる限り子どもを安全を守るために、冷静に考える力、判断力をこれからも身につけたいと思う。

- ・子どもの安全を守るために、保育者としてとるべき行動や、その地域の危ないと思われる場所、津波が来たらどうなるのかを知っておくことが大切だと学びました。自転車の動画を見て、危険察知能力を身につけておくことで、事故になるかもしれないと判断し、事故を回避することができると思いました。

- ・水害では、数センチの深さの水の流れでも子どもにとっても大人であっても流されてしまう危険もあるため、川の近くや大雨でも気をつけるべきだと考えました。

・学校安全の授業では、保育を行う中での事故防止策や事故、災害における対応など様々な分野について学びました。これから保育に限らず保育以外でも生活を送るなかで、思ってもいないことが起こってしまうことは多くあると考えられます。そういった時に速やかに自分が対応できるかできないかで自分の命にも周りの命にも関わってくると考えられます。この授業で学んだことをこれからの自分の人生に活かしていきたいと思いました。

・学校安全の授業を通して学んだことは、子どもの命、そして、自分の命を守るためには知識を身につけることが本当に大切だということです。正直、最初は学校安全という授業に対してやる意味あるのかな、と思ってしまうところもありました。ですが、授業を受けていく中で、なるほど、と思うことや初めて知ることがたくさんありました。これからも、たくさん知識を身につけて実践を通して自分のものにしていくことで、子どもの命を守ることが出来る保育者になれるのではないかと思います。

・聖和キャンパスのような高い位置にある建物でも浸水などの被害に遭うことがあるということにとっても驚きました。私の家も高台にあるため、地震などの災害に巻き込まれることはあっても水害だけは心配がないだろうと思っていたのですが、聖和キャンパスのようなことになってしまっは困るため、いざという時のことを家族間で話し合っておこうと思います。また、避難標識の使い方などが自治体により違うということも驚きました。山形に親戚がいるのですが、堤防の外側に住んでいるため津波が来た時家にいたら間違いなく全滅します。上手く避難できるように、標識などについて教えておこうと思いました。

・この授業を通して、保育者として子どもを守るために必要なことについてたくさん学ぶことができました。災害時やアナフィラキシーショックを起こしたとき、不審者が現れたとき、登園・降園時の交通安全についてなど、詳しく知ることが出来ました。実際にそのようなことが、働き出したときに起きたら、落ち着いて対応できるように頑張ります。

・私は、この授業で印象に残っている授業内容が2つあります。1つはエピペンの注射を実際に使ったアレルギーに関する授業。そして、もうひとつは関学の中央講堂で行った際の震災に関する授業です。保育士は、子どもの命を守ることが大切とされますが、アレルギーや震災といった、イレギュラーなケースにも迅速かつ正しい行動が必要とされるのだと学ぶことが出来ました。津波後の実際の写真や、保育士がとった何気ない行動の1つで幼い尊い命が失われたり、守られたりするのだと気付くことができとても良い学びになったと感じました。

・予期せぬ事から子どもを守る必要性を知った。また、多くの事例などから日常に危険は潜んでいてそれらから守るためには細心の注意を払うことが大切だと知ることができた。また、重要性だけでなく、その手段について学ぶことができた。